

# 高知県長期漁海況予報

## 2025年上半期の漁況・海況の予報

2025年1月発行 高知県水産試験場

このたび「令和6年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」が開催され、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、高知県、関係都道府県等による最新の調査結果から、2025年1～6月の期間についての長期漁海況予報が作成されました。高知県関係を中心に、その概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況（1月～6月）

黒潮：土佐湾沖の黒潮は、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸傾向となることがある。

沿岸水温：土佐湾の沿岸表層水温は、1月から3月は「平年並」～「高め」で推移する。

#### 漁況（1月～6月）

ゴマサバ（立縄）：引き続き低水準で前年並、平年を下回る

マアジ：前年を上回る

マイワシ：前年並

カタクチイワシ：前年を下回る

ウルメイワシ：前年並～上回る

\*詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

# 海況

【海況の経過（2024年7月～2024年12月）】

## 1 黒潮

潮岬以東の黒潮流型は、A型流路の大蛇行が継続しました。

足摺岬沖の黒潮流軸は、7月上旬から8月に離岸距離15～55マイルで「接岸」～「かなり離岸」で推移しました。9月上旬に黒潮の蛇行部が東に進み、離岸距離45～90マイルで「かなり離岸」～「著しく離岸」となりました。その後、9月中旬から12月下旬にかけて離岸距離10～60マイルで「接岸」～「かなり離岸」で推移しました。

室戸岬沖では、7月上旬から8月上旬にかけて離岸距離35～50マイルで「やや離岸」～「かなり離岸」で推移しました。8月中旬～9月上旬にかけて離岸距離20～40マイルで「接岸」～「やや離岸」で推移しました。その後、9月上旬から12月下旬まで離岸距離25～60マイルで「やや離岸」～「かなり離岸」で推移しました（図1、2、表1）。

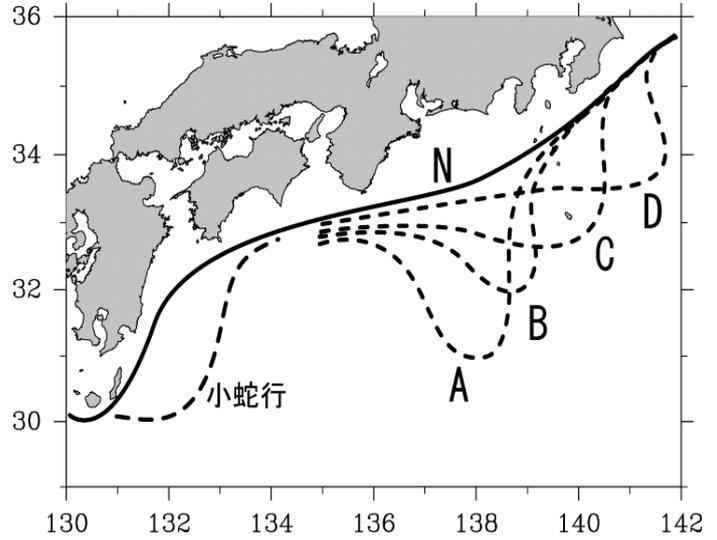


図1 黒潮の流路パターン

表1 黒潮流軸位置階級区分

階級区分	範囲(マイル)
接岸	< 25
やや離岸	25 ≤、< 45
かなり離岸	45 ≤、< 65
著しく離岸	65 ≤

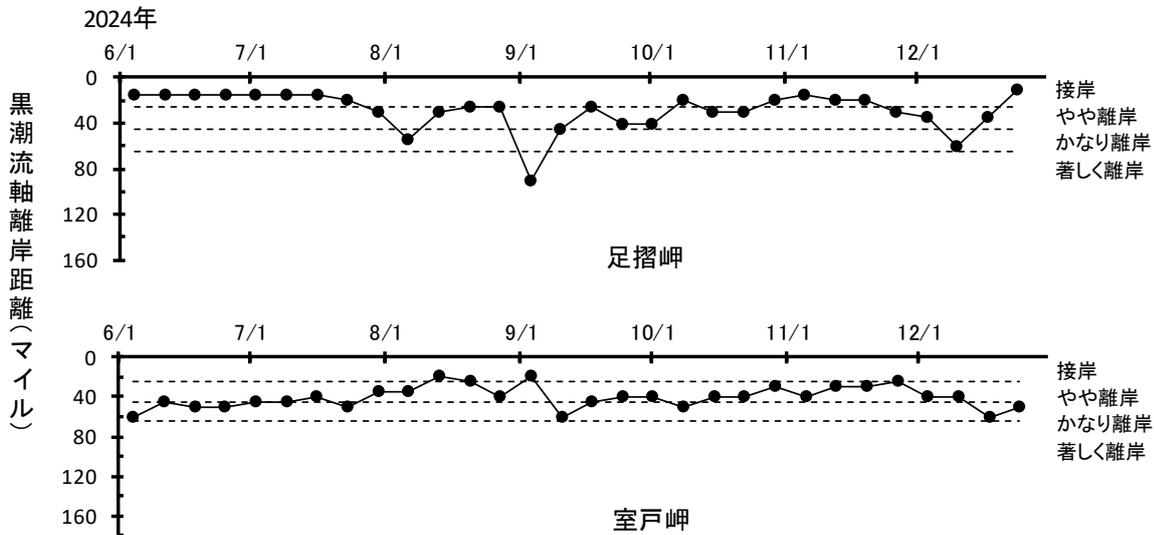


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）  
\*流軸離岸距離は、正南(S)方向

## 2 沿岸海況

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温の概況は、7月から12月にかけて、「著しく低め」～「かなり高め」でした。月別に見ると、7月は、水深0～125mまで「平年並」、150m以深は「やや高め」～「かなり高め」で推移しました。8月は、水深0mで「かなり高め」、175mで「やや高め」、その他の水深では「かなり低め」～「平年並み」で推移しました。9月は、水深0～20m、175mで「やや高め」～「かなり高め」、水深30～150mで「かなり低め」～「平年並」でした。10月は、水深0～30mで「かなり高め」、水深75～150mで「著しく低め」～「かなり低め」、水深50m、175mで「平年並」でした。11月は、水深0～100m及び175mで「やや高め」～「かなり高め」で推移し、水深125～150mで「平年並」でした。12月は、水深0～50mで「かなり高め」、75mで「やや高め」、水深100～150mで「やや低め」～「かなり低め」、水深175mで「平年並」で推移しました(図3、表2, 3, 4, 5)。

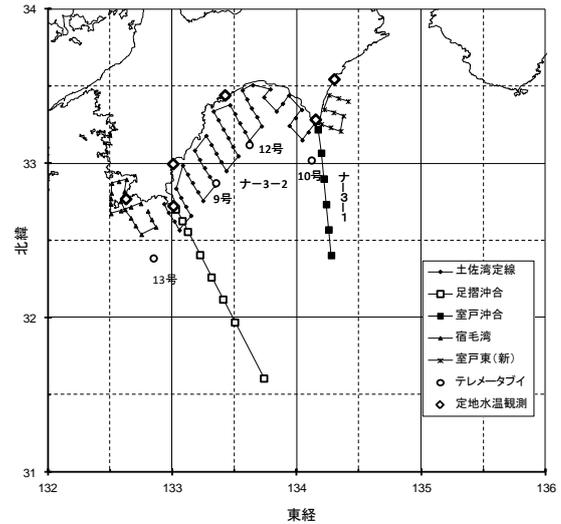


図3 高知県沿岸定線観測地点図

表2 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2℃以上
++	かなり高め	1.3～2.2℃
+	やや高め	0.6～1.3℃
+-	平年並(+基調)	0.0～0.6℃
---	著しく低め	-2.2℃以下
--	かなり低め	-1.3～-2.2℃
-	やや低め	-0.6～-1.3℃
-+	平年並(-基調)	0.0～-0.6℃

表3 2024年7月～12月の土佐湾内水深別水温偏差

※平年値の算出は、1991～2020年、色付き部分は、欠測を示す

水深	2024年7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	+-	++	++	++	+	++
10m	+-	+-	++	++	+	++
20m	+-	--	+	++	+	++
30m	-+	--	-+	++	++	++
50m	-+	--	--	-+	++	++
75m	-+	-	--	---	++	+
100m	-+	-	-	---	++	--
125m	+-	-+	-+	---	+-	--
150m	+	+-	+-	--	+-	-
175m	++	+	++	-+	+	+-
200m	+					

表4 2024年7月～12月の土佐湾内水深別水温

※色付き部分は、欠測を示す。

水深	2024年7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	25.55	30.16	29.58	27.33	24.62	22.31
10m	24.24	26.89	29.01	27.28	24.78	22.47
20m	22.95	23.74	27.85	27.34	24.81	22.46
30m	21.68	21.91	25.80	27.20	24.86	22.46
50m	19.73	19.29	21.53	24.65	24.80	22.22
75m	17.79	17.62	18.80	19.66	23.41	20.96
100m	16.54	16.36	17.24	17.20	21.25	17.66
125m	15.76	15.49	16.11	15.66	17.70	15.68
150m	15.16	14.69	15.18	14.32	15.86	14.48
175m	14.48	13.70	14.22	13.23	14.04	13.40
200m	13.26					

表5 2024年7月～12月の土佐湾内水深別水温の平年偏差

※平年値の算出は1991～2020年、色付き部分は、欠測を示す。

水深	2024年7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	0.29	2.06	1.94	1.47	1.08	1.30
10m	0.12	0.11	1.56	1.39	1.23	1.41
20m	0.00	-1.48	0.90	1.45	1.26	1.40
30m	-0.17	-1.85	-0.27	1.46	1.32	1.42
50m	-0.32	-1.73	-2.01	-0.05	1.48	1.34
75m	-0.34	-1.04	-1.40	-2.50	1.40	0.65
100m	-0.20	-0.83	-0.91	-2.57	1.49	-1.32
125m	0.24	-0.47	-0.46	-2.27	0.24	-1.51
150m	0.80	0.02	0.24	-1.80	0.14	-1.04
175m	2.14	1.27	1.55	-0.27	1.16	0.44
200m	0.98					

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の塩分の概況は、7月から12月にかけて「著しく低め」～「平年並」でした。月別に見ると、7月は、水深0mで「著しく低め」、その他の水深は「やや低め」～「平年並」で推移しました。8月は、水深0～10mで「かなり低め」、その他の水深は「やや低め」～「平年並」で推移しました。9月は、水深0～10mで「著しく低め」～「かなり低め」、その他の水深で「やや低め」～「平年並」で推移しました。10月は、水深0～20mで「やや低め」、その他の水深は「平年並」で推移しました。11月は、水深0mで「やや低め」、その他の水深は「平年並」で推移しました。12月は、全水深で「平年並」でした（表6,7,8,9）。

表6 土佐湾塩分平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2以上
++	かなり高め	1.3～2.2
+	やや高め	0.6～1.3
+ -	平年並（+基調）	0.0～0.6
---	著しく低め	-2.2以下
--	かなり低め	-1.3～-2.2
-	やや低め	-0.6～-1.3
- +	平年並（-基調）	0.0～-0.6

表7 2024年7月～12月の土佐湾内水深別塩分偏差

※平年値の算出は、1991～2020年、色付き部分は、欠測を示す。

水深	2024年7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	---	--	---	-	-	+ -
10m	-	--	--	-	- +	+ -
20m	- +	-	-	-	- +	- +
30m	- +	- +	-	- +	- +	- +
50m	- +	- +	- +	- +	- +	- +
75m	- +	- +	+ -	- +	- +	- +
100m	- +	- +	+ -	- +	- +	- +
125m	- +	- +	- +	- +	- +	- +
150m	- +	- +	- +	- +	- +	- +
175m	- +	- +	- +	- +	- +	- +
200m	- +					

表8 2024年7月～12月の土佐湾内水深別塩分  
 ※色付き部分は、欠測を示す。

水深	2024年7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	31.44	32.91	31.96	33.29	33.71	34.46
10m	33.63	33.12	32.84	33.57	33.91	34.46
20m	33.92	33.57	33.46	33.77	33.95	34.46
30m	34.16	34.04	33.82	33.90	33.97	34.47
50m	34.32	34.42	34.34	34.10	34.01	34.47
75m	34.45	34.51	34.56	34.51	34.17	34.51
100m	34.51	34.54	34.58	34.57	34.38	34.57
125m	34.52	34.53	34.57	34.55	34.55	34.55
150m	34.50	34.51	34.54	34.50	34.54	34.53
175m	34.48	34.47	34.50	34.46	34.49	34.48
200m	34.42					

表9 2024年7月～12月の土佐湾内水深別水温の平年偏差  
 ※平年値の算出は1991～2020年、色付き部分は、欠測を示す。

水深	2024年7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	-3.01	-1.53	-2.48	-1.16	-0.74	0.01
10m	-0.82	-1.34	-1.61	-0.88	-0.55	0.00
20m	-0.55	-0.89	-1.00	-0.70	-0.52	-0.01
30m	-0.31	-0.43	-0.65	-0.57	-0.50	0.00
50m	-0.15	-0.05	-0.14	-0.38	-0.46	0.00
75m	-0.07	-0.01	0.03	-0.02	-0.36	-0.01
100m	-0.06	-0.03	0.01	0.00	-0.19	0.00
125m	-0.07	-0.06	-0.02	-0.03	-0.04	-0.04
150m	-0.06	-0.06	-0.02	-0.06	-0.02	-0.04
175m	-0.05	-0.06	-0.03	-0.07	-0.04	-0.05
200m	-0.05					

### 3 定地水温

土佐湾沿岸域6地点の表層水温の概況は、7月から12月にかけて「平年並」～「著しく高め」でした。月別に見ると、7月は、県西部の柏島で「平年並」、県中部の浦ノ内で「かなり高め」、その他の地点では「やや高め」で推移しました。8月は、全地点「かなり高め」で推移しました。9月は、県西部の入野で「著しく高め」、柏島で「やや高め」、その他の地点では、「かなり高め」で推移しました。10月は、県西部の入野で「やや高め」、その他の地点では「かなり高め」で推移しました。11月は、県東部の甲浦、室戸岬で「かなり高め」、その他の地点では「著しく高め」で推移しました。12月は、県西部の入野で「かなり高め」、その他の地点では「平年並」で推移しました（表2，10）。

表10 高知県沿岸定地水温偏差  
※平年値の算出は1991～2020年

観測点	甲浦	室戸岬	浦ノ内	入野	伊佐	柏島
24/7	+	+	++	+	+	-+
8	++	++	++	++	++	++
9	++	++	++	+++	++	+
10	++	++	++	+	++	++
11	++	++	+++	+++	+++	+++
12	+-	-+	+-	++	+-	+-

### 3 特異現象（2024年7月～12月）

#### <海況>

- ・黒潮の蛇行は継続中。
- ・水温：8月～11月、県沿岸定地水温は、「やや高め」～「著しく高め」で推移した。
- ・高知県沖（土佐湾沖）の黒潮は、過去2年の同時期に比べて、接岸傾向で安定した。

#### <漁況>

#### ○定置網（7月～11月、宿毛湾を除く）

- ・ビンナガ：3.8t（前年同時期比3.75倍、過去5年同時期平均比18.6倍）
- ・ムロアジ類（銘柄：ムロアジ、ミズムロ、セイメイ、モロ、シムロ）：142.6t（前年同時期比2.4倍、過去5年同時期平均比3.7倍）
- ・シマアジ（小型含む）：13.6t（前年同時期比2.8倍、過去5年同時期平均比4.7倍）
- ・カタクチイワシ：3.3t（前年同時期比666倍、過去5年同時期平均比9.1倍）

#### ○宿毛湾中型まき網（7月～10月）

- ・カタクチイワシ（たれ銘柄）：774t（前年同時期比9.4倍、過去5年同時期平均比5.9倍）
- ・カイワリ：67.7t（前年同時期比11.6倍、過去5年同時期平均比5.8倍）
- ・ムロアジ類（せいめい銘柄）：114.4t（前年同時期比23.6倍、過去5年同時期平均比31.5倍）

### 【今後の見通し（2025年1月～6月）】

#### 1 黒潮

##### <流型>

黒潮はA型（典型的な大蛇行流路）で推移しています。今後もA型基調で推移する見込みです。

##### <四国沖の黒潮>

土佐湾沖の黒潮は、1月～6月は、足摺岬～室戸岬沖で「やや離岸」～「著しく離岸」で推移しそうです。また、黒潮の蛇行北縁部の位置により、一時的に接岸傾向になることもあります。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した都井岬東方での黒潮流軸の動向の予測手法 (FRA-ROMS)、気象庁の表層水温・海流実況図によっています。

## 2 沿岸の水温

1月から3月にかけては「やや高め」～「かなり高め」で推移する見込みです。

(根拠)

気象庁発表の「季節予報」(令和6年12月24日発表、予報期間：令和7年1月～令和7年3月)によると、気温の階級別確率<sup>※</sup>は「高い」が40%でした。また、令和6年の春季までラニーニャ現象が続く影響を受け、西日本太平洋側では、例年より高い水温を記録すると予想しました。

※気温の階級別確率は、3つの階級(低い、平年並み、高い)のうち、どの範囲に入るかについて確率を使って予報しています。

# 漁 況

## I さば類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（2024年7～11月）】

### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網によるさば類水揚量は715.2トンで、前年比251.2%、平年比94.3%でした。CPUEは2.0トン/日/統で、前年比326.2%、平年比134.3%でした。測定したさば類の尾叉長組成は、ゴマサバが8月に24.0～29.9cm、マサバが8月に20.0～29.9cm、9月に29.0～32.9cmでした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるゴマサバ水揚量は44.2トンで、前年比86.4%、平年比40.3%、マサバ水揚量は43.3トンで、前年比96.8%、平年比69.7%でした。測定したゴマサバの尾叉長組成は、11月に28.0～35.9cmでした。
- (3) 立縄（足摺岬周辺）によるゴマサバ水揚量は9.1トンで、前年比126.8%、平年比11.9%で、CPUEは24.0kg/日/隻で前年比167.2%、平年比49.2%でした。また、当漁法による水揚量の主体はゴマサバでした。

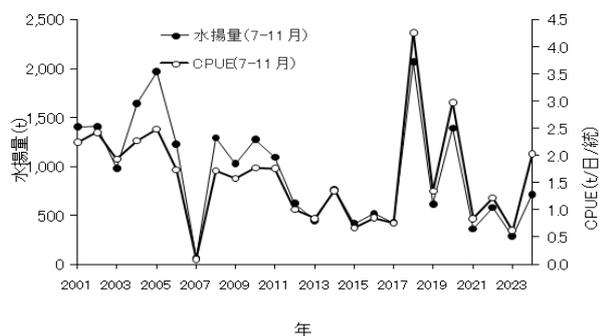


図4 宿毛湾中型まき網による月別さば類水揚量及びCPUEの経年変化

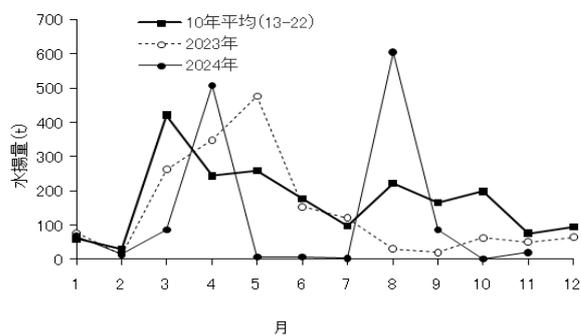


図5 宿毛湾中型まき網によるさば類水揚量

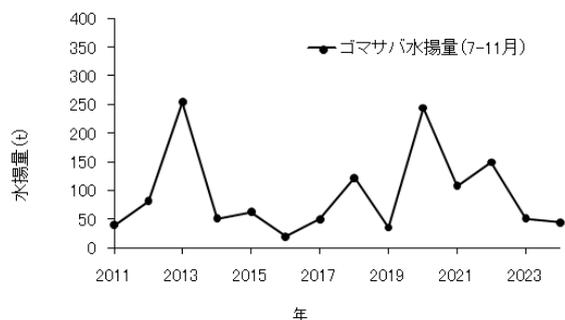


図6 大型定置網（窪津・椎名）によるゴマサバ水揚量の経年変化

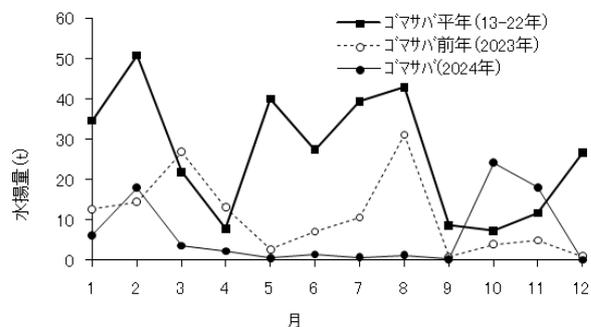


図7 大型定置網（窪津・椎名）による月別ゴマサバ水揚量



図8 大型定置網（窪津・椎名）によるマサバ水揚量の経年変化

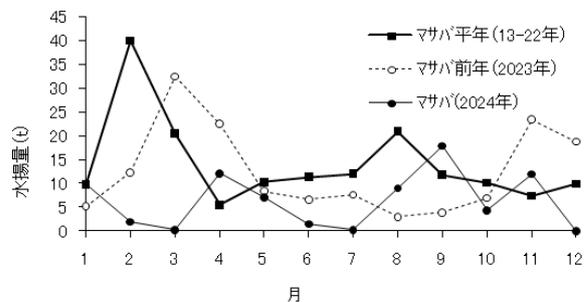


図9 大型定置網（窪津・椎名）による月別マサバ水揚量

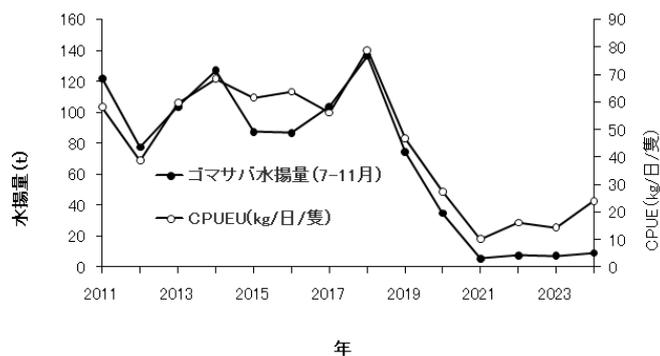


図 10 立縄（土佐清水）によるゴマサバ水揚量及びCPUEの経年変化

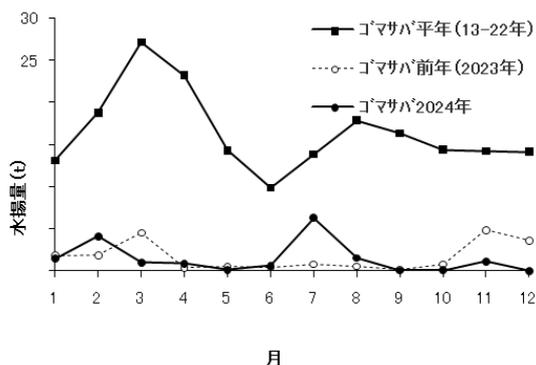


図 11 立縄（土佐清水）による月別ゴマサバ水揚量

## 2 周辺各県

宮崎県：日向灘のまき網によるさば類の7～11月漁獲量は1,383.0トンで、前年比370.0%、平年比67.0%（過去5年平均）でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網によるさば類の7～11月漁獲量は、143.0トンで、前年比41.0%、平年比10.0%（過去20年平均）でした。

和歌山県：紀伊水道の2そうまき網による7～11月漁獲量は814.6トンで、前年比81.0%、平年比44.0%（過去10年平均）でした。熊野灘の定置網による漁獲量は0.2トンで、前年比39.0%、平年比2.0%でした。

### 【漁況予測（2025年1～6月）】

(1) 対象海域及び漁業種類：立縄（足摺岬周辺）

\* 定置網及び中型まき網の漁況は年変動が大きく予測は困難です。

(2) 漁獲対象年級群：3歳魚（2022年級群）から5歳魚（2020年級群）

(3) 来遊量：立縄漁では、引き続き低水準で前年並、平年を下回る。

（参考）前年（2024年）1～6月の立縄（足摺岬周辺）

ゴマサバ水揚量：7.2トン

説明：立縄漁で漁獲されるさば類のほとんどはゴマサバです。近年のゴマサバ水揚量は、上半期、下半期とも極めて低い水準で推移していることから、2025年上半期の水揚量も同様の傾向が続くと予測されます。

## II マアジ

### 【漁況経過（2024年7～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾中型まき網の水揚量は、894.9トンで、平年比173%、前年比162%でした。銘柄別では、「ぜんご」（約100g未満）が725.7トンで、平年比187%、前年比147%、「あじ」（約100g以上）が169.2トンで、平年比131%、前年比303%でした。測定した魚体の尾叉長組成は9月で13.0～14.9cm及び23.0～26.9cmが主体、10月は20.0～24.9cmが主体であり、それぞれ1歳魚（2023年級群）、0歳魚（2024年級群）が中心と思われます。
- (2) 窪津・椎名2定置網の合計水揚量は102.7トンで、平年比146%、前年比97%でした。測定した魚体の尾叉長組成は11月で14.9～15.9cmが主体であり、0歳魚（2024年級群）が中心と思われます。

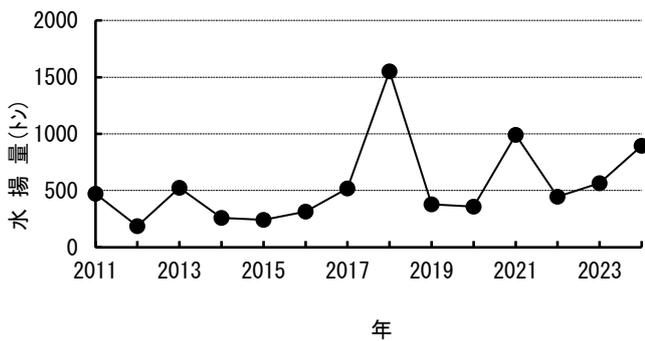


図12 宿毛湾中型まき網によるマアジ水揚量の経年変化（7-11月）

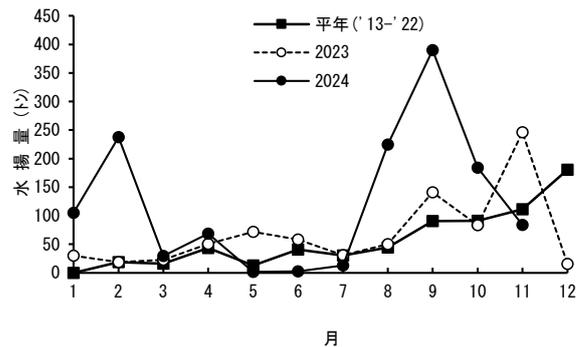


図13 宿毛湾中型まき網による月別マアジ水揚量

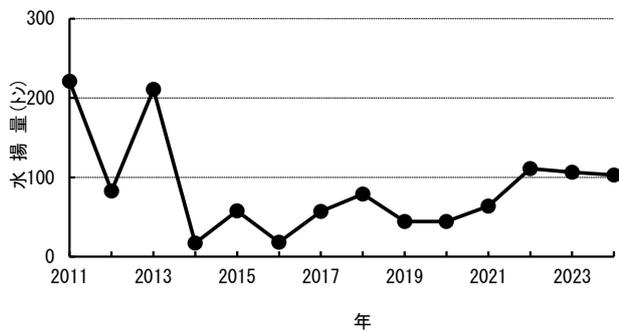


図14 大型定置網（窪津・椎名の2水揚地合計）によるマアジ水揚量の経年変化（7-11月）

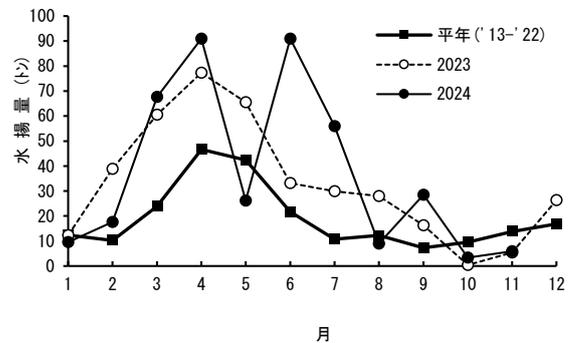


図15 大型定置網（窪津・椎名の2水揚地合計）による月別マアジ水揚量

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の水揚量は700トンで、前年比67%、平年（過去5年平均）比79%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の水揚量は1,086トンで、前年比629%、平年（過去20年平均）比79%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による7～11月の水揚量は145.4トンで、前年比265%、平年（過去10年平均）比27%でした。

大分県：豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）（以下「南部」という。）のまき網による7～11月の水揚量は103.7トンで、前年比71.8%、平年比7.8%でした。

【漁況予測（2025年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年級群）、1歳魚（2024年級群）

(2) 来遊量：前年を上回る。

(参考) 前年（2024年）1～6月の宿毛湾の中型まき網

「ぜんご」水揚量： 339.3トン

マアジ全体水揚量： 445.2トン

説明：中型まき網で1歳魚（2024年級群）の来遊が前年より多いことから、来遊水準は前年を上回ると考えられます。

### Ⅲ マイワシ

#### 【漁況経過（2024年7～11月）】

##### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による水揚は279.9トンで平年比37%、前年比254%でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は6.3トンで、平年比13%、前年比455%でした。

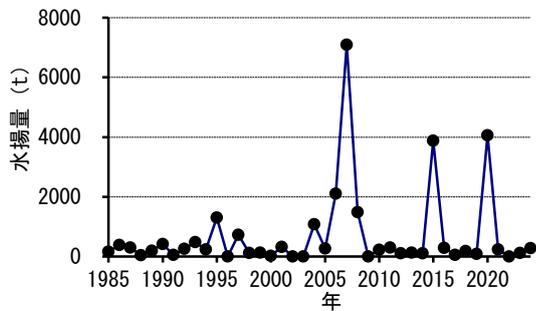


図16 宿毛湾中型まき網によるマイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

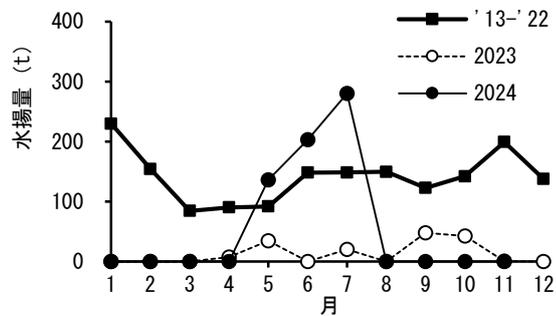


図17 宿毛湾中型まき網による月別マイワシ水揚量

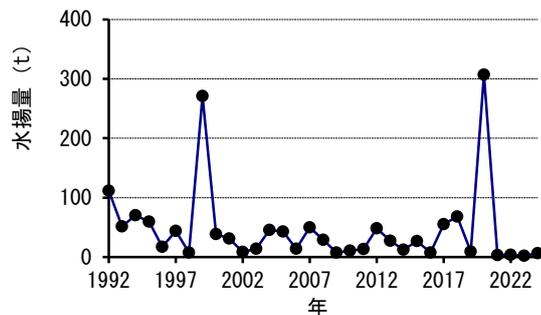


図18 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）マイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

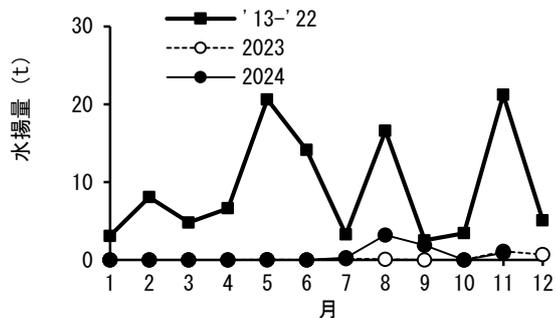


図19 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別マイワシ水揚量

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の総水揚量は1,229トンで、前年比106%、平年比26%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による7～11月総水揚げ量は1,120.4トンで、平年比53.2%、前年比は93.6%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の総水揚量は384トンで、前年比999%、平年比80%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による7～11月の水揚はありませんでした。

#### 【漁況予測（2025年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年級群）、1歳魚（2024年級群）以上が漁獲されます。

(2) 来遊量：前年並

(参考) 前年（2024年）1～6月のマイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：339.3トン

定置網（窪津・椎名合計）：なし

説明：宿毛湾における中型まき網の漁況から、上半期水揚の主体となる1歳魚（2024年級群）の来遊水準は、前年を上回って推移しています。定置網では、前年を上回る漁況です。しかし、まき網及び定置網ともに平年を下回り低水準で推移しているため、来遊量は前年並と予測されます。

#### IV カタクチイワシ

##### 【漁況経過（2024年7～11月）】

##### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は792.0トンで、平年比198%、前年比828%でした。

銘柄別では、未成魚・成魚の銘柄「たれ（銘柄の被鱗体長は概ね6.5cm以上）」が774.3トンで、平年比234%、前年比944%、幼魚「どろ（銘柄の被鱗体長は概ね4.0cm～6.5cm）」が17.7トンで、平年比26%、前年比130%でした。

(2) 宿毛湾の小型まき網による水揚量は1.01トンで、平年比1%、前年比504%でした。銘柄別では、未成魚・成魚「たれ」は実績なし、幼魚「どろ」が0.98トン、平年比1%、前年比889%、稚魚「かえり（銘柄の被鱗体長は概ね3.5cm～4.0cm）」が0.03トンで、平年比0.2%、前年比33%でした。

(3) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は1.8トンで、平年比16%、前年比18,000%でした。

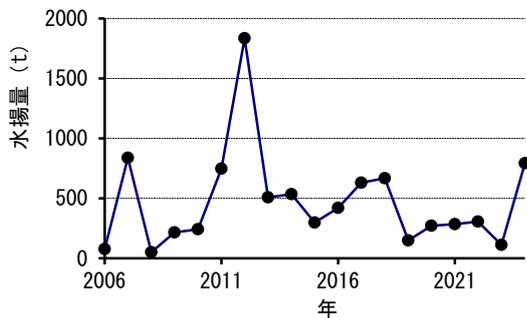


図 20 宿毛湾中型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

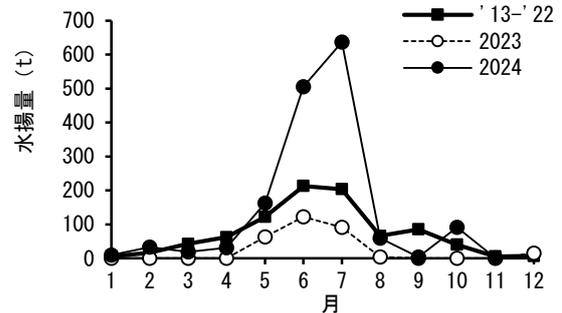


図 21 宿毛湾中型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

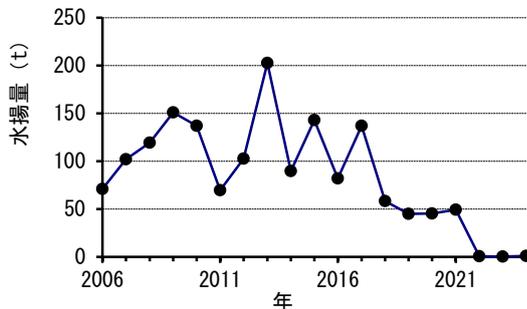


図 22 宿毛湾小型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

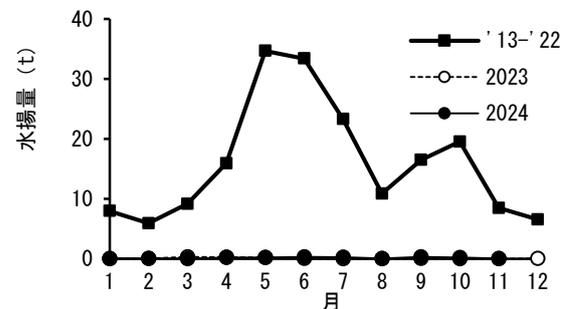


図 23 宿毛湾小型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

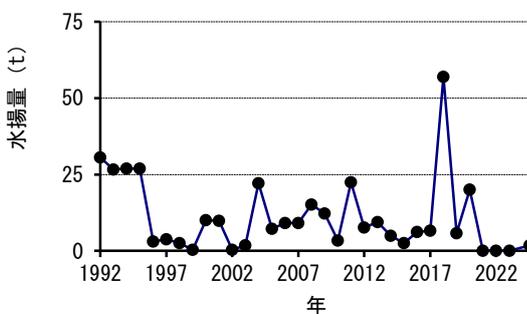


図 24 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

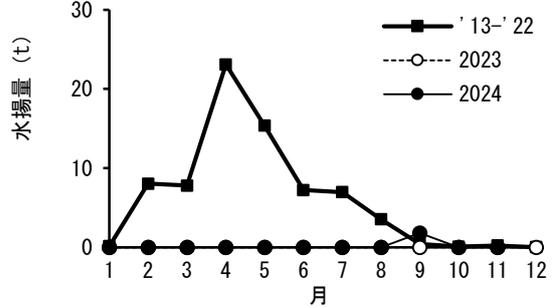


図 25 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別カタクチイワシ水揚量

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の総水揚量は1,485トンで、前年比1,116%、平年比277%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による7～11月の総水揚げ量は112.4トンで、前年比49.8%、平年比8.7%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の総水揚量は2,621トンで、前年比47%、平年比84%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

### 【漁況予測（2025年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年級群）、1歳魚（2024年級群）以上が漁獲されます。

(2) 来遊量：前年を下回る。

(参考) 前年（2024年）1～6月のカタクチイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：760.1トン

宿毛湾の小型まき網：1.0トン

定置網（窪津・椎名合計）：0トン

説明：上半期の宿毛湾中型まき網水揚量と前年10月～11月の宿毛湾中型まき網及び日向灘まき網の水揚量合計との間には、正の相関関係が見られます（ $p < 0.05$ ,  $n=15$ ,  $R^2=0.211$ ）。2024年10～11月の宿毛湾中型まき網及び日向灘まき網の水揚量合計は前年を上回る119トンであり、予測式から2025年上半期の推定水揚量は361.9トンと推定されます。この推定値は、前年同期の760.1トンを下回っていることから来遊量は前年を下回ると予測されます。

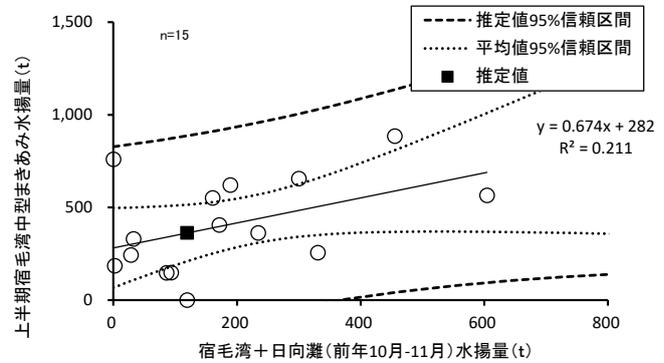


図26 宿毛湾及び日向灘中型まき網の前年10月～11月の水揚量と宿毛湾中型まき網におけるカタクチイワシの上半期水揚量との関係

## V ウルメイワシ

### 【漁況経過（2024年7～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は1,415.8トンで、平年比73%、前年比77%でした。
- (2) 土佐湾中央部（宇佐）の多鈎釣による水揚げはありませんでした。
- (3) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は52.6トンで、平年比68%、前年比46%でした。

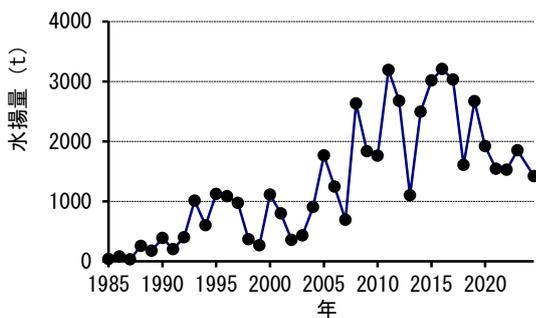


図 27 宿毛湾中型まき網によるウルメイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

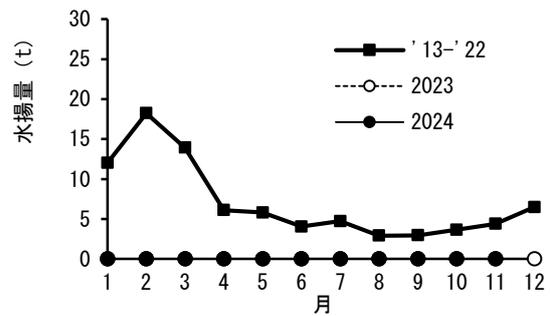


図 28 宿毛湾中型まき網による月別ウルメイワシ水揚量

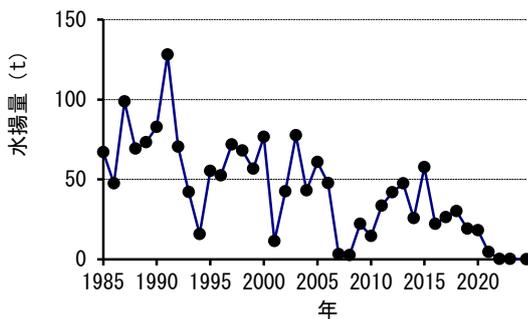


図 29 宇佐の多鈎釣によるウルメイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

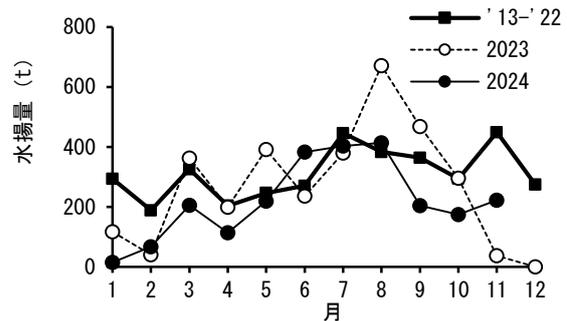


図 30 宇佐の多鈎釣による月別ウルメイワシ水揚量

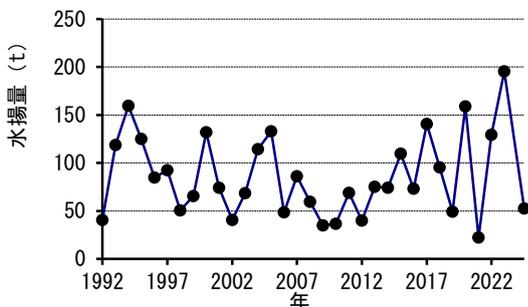


図 31 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるウルメイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

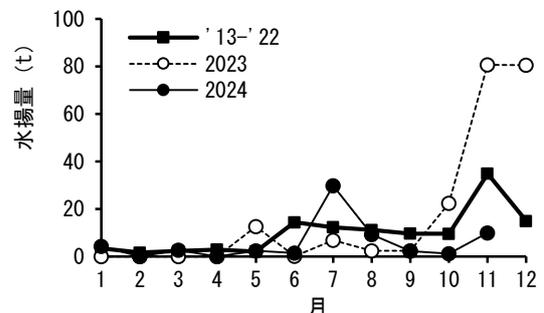


図 32 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別ウルメイワシ水揚量

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の総水揚量は5,331トンで、前年比79%、平年比62%

でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による7～11月の総水揚量は1,389.1トンで、前年比58.8%、平年比131.7%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の総水揚量は1,656トンで、前年比54%、平年比58%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による7～11月の水揚量は0.0トンでした。

#### 【漁況予測（2025年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年級群）、1歳魚（2024年級群）以上が漁獲されます。

(2) 来遊量：前年並か前年を上回る。

(参考) 前年（2024年）1～6月のウルメイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：999.9トン

多鈎釣漁（宇佐）：0トン

定置網（窪津・椎名合計）：11.1トン

説明：宿毛湾中型まき網における上半期の水揚量と前年の7月～12月期の水揚量には有意な正の相関がみられます（ $p < 0.01$ 、 $n = 47$ 、 $R^2 = 0.5627$ ）。2024年7月～11月の宿毛湾中型まき網の水揚げ量合計は1,415.8トンであり、予測式から2025年上半期の水揚量は、1,773.6トンと計算され、前年の999.9トンより多いことから、来遊量は前年並か上回ると予想されます。

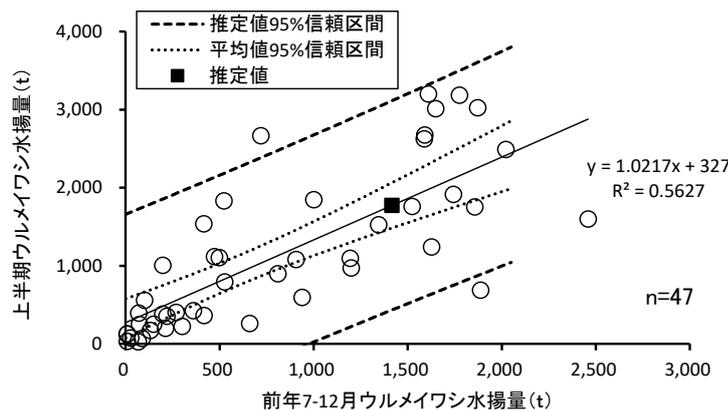


図 33 宿毛湾中型まき網におけるウルメイワシの上半期水揚量と下半期水揚量との関係（1978～2024年）

※2024年のみ7～11月の水揚量

## VI シラス

### 【漁況経過（2024年7～11月）】

#### 1 高知県

(1) 機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による水揚量は67.6トンで、平年比28%、前年比166%でした。

魚種組成は、1月がウルメイワシ主体、2月～12月がカタクチイワシ主体でした。

(2) 宿毛湾の小型まき網による水揚げ量は0.0トンで、平年比0.01%、前年比0.4%でした。

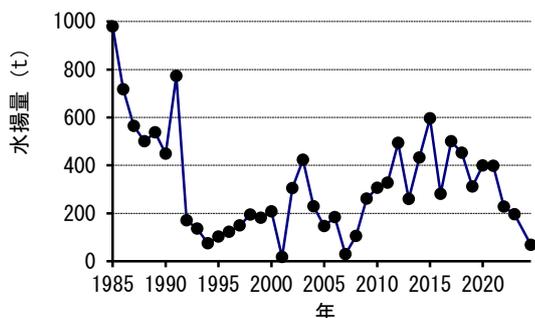


図 34 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）によるシラス水揚量の経年変化（7-11月）

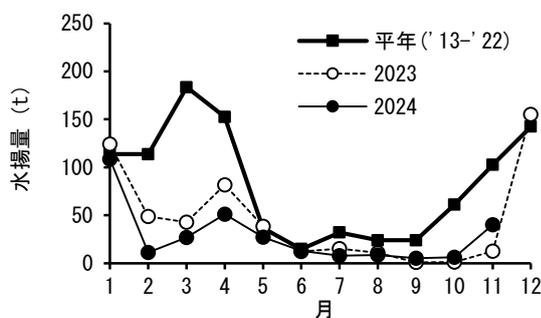


図 35 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）による月別シラス水揚量

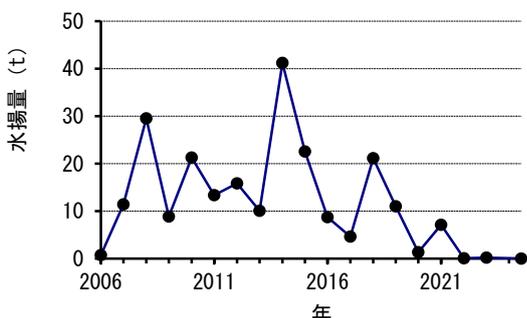


図 36 宿毛湾小型まき網シラス水揚量の経年変化（7-11月）

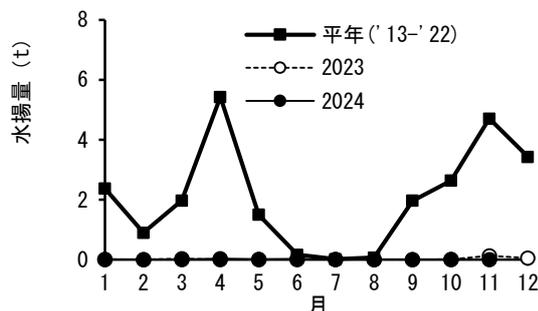


図 37 宿毛湾小型まき網シラス月別水揚量

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：7～11月の総水揚量は239トンで、前年比95%、平年比48%でした。

大分県：佐伯湾における7～11月の総水揚げ量は99.1トンで、前年比90.3%、平年比63.7%でした。

大阪府：大阪湾における7～11月（主漁期7～11月）の水揚量は137.0トンで、前年比40%、平年比74%でした。

### 【漁況予測（2025年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年級群）

(2) 来遊量：シラスの来遊には、産卵親魚の産卵状況、他海域からの卵稚仔の輸送、餌料、漁場形成に影響する沿岸域の海洋環境等が複雑に影響することから、現時点では長期予測を行う根拠を見いだせていません。